

こゝろにて云ひけるは、多辯長舌なるものは、その意氣をむなしく勞して、嗒焉呼吸を養はざれば、必ともに短命なりと、物がたりければ、それより後は、かの老婆なほ長生やしたかりけん物いはんとしては止みぬるさまいとをかしかりしとぞ、さばかり生きのびたる老婆の猶いつまでか世にあらんとの心づかひ、欲にかぎりのあらざるよと、物がたりせし人ありし。

〔文德實錄五〕仁壽三年十二月丁丑、相模權介從五位上山田宿禰古嗣卒。古嗣○中爲人廉謹而寡言

辭。

〔陸奥話記〕藤原景季者、景通長子也、年二十餘、性少言語、善騎射、合戰之時、視死如歸。

〔源氏物語六未摘花〕年比思ひわたるさまなど、いとよくの給ひつゞくれど、ましてちかき御いらへはたえてなし、わりなのわざやと、うちなげき給ふ。

いくそたびきみがし、まにまけぬらんものないひそといはぬたのみに、の給ひもすて、よかしだまだすきくるしとの給ふ、女君○未の御めのとごじ、うとて、いとはやりかなるわか人、いと心もとなう、かたはらいいたしと思ひて、さしよりて聞ゆ。

かねつきでとちめんことはさすがにてこたへまうきぞかつはあやなき

〔花鳥餘情四未摘花〕いくそたび○中 是は童部の諺に、無言を行せんと約束して、無言々々としじまにかねつくといひて、なににてもうちならして後、物いはぬ事をする也○下

〔拾玉集一〕百首和歌 述懷

うき身にはし、まをだにもえこそせね思あまればひとりごたれて

〔書言字考節用集九比トヨゴト〕

〔倭訓栞中編二十一〕ひとりごち 獨言する也、とす反つなり。

〔更科日記〕國○武の人の有けるを、火たきやのひたく衛士にさし奉りたりけるに、御前の庭をは